

News Release



2019年12月18日

お客様各位

株式会社名門大洋フェリー
代表取締役社長 野口 恭広

2021年12月・2022年3月に、当社歴代最大の“^{シティ}CITY ^{ライン}LINE”新造船就航!!

大阪南港～北九州・新門司港間でフェリーを運航する株式会社名門大洋フェリー（本社：大阪市西区、代表取締役社長：野口 恭広）では、2021年度の就航に向けて2隻の新造船を独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構と共有建造致します。

新造船は、2002年に就航した「フェリーきょうとⅡ」・「フェリーふくおかⅡ」（全長167m、幅25.6m、総トン数9,770トン）のリプレースで、全長195m、幅27.8m、総トン数約15,400トンと、当社歴代最大船型となり、次世代の“CITY LINE”にふさわしいデザインで誕生します。

既存船からの大型化により、車輛搭載能力を強化すると共に、二層同時荷役方式を採用し、荷役の効率化を図っています。ドライバーズルームも大幅に増室、物流部門における関西～九州圏のモーダルシフト促進の一役を担えるものと期待しています。

また、推進プラントは瀬戸内最適型を志向、ハイブリッド型アジマス推進加勢方式、空気潤滑システムを採用し、大幅な省エネ（大型トラック1台当りの燃料消費量を既存船から約35%削減）と操船性向上を実現します。また、省エネによるCO₂低減に加え、ハイブリッド型スクラバーを設置することで大気中に放出するSO_x（硫黄酸化物）を低減し、地球環境に優しい運航を目指します。

新造船は被代替船の船名から「きょうと」「ふくおか」の都市名を継承することから、居住空間のデザインは、歴史的建築物の凛とした佇まいや四季折々の風情が息づく京都の街並みをモチーフとした『古都のたたずまい』と、近代的なウォーターフロント開発が進む博多湾の臨海エリアと、海の中道や能古島の自然が共存する福岡の活力をモチーフとした『ベイサイドシティのきらめき』を基本コンセプトとします。

旅客定員は715名とし、客室にお客様のプライバシーを重視した他、船内で船旅を楽しんで頂ける設備を設けています。

家族・グループ旅行・女子旅に適応した洋室（2～3名部屋）にはトイレ・シャワーを設け、ビジネスで利用されるお客様やお一人で乗船される方のために1名部屋を数多く設置します。

併せて、女性のお客様やお子様連れのご家族に優しいフェリーを目指し、パウダールーム・授乳室・キッズルームを設置します。また、エントランスホールと同じフロアに、乗用車専用のスペースを設け、乗用車のお客様の利便性を追求します。

この度の新造船は、船体の大型化により広々とした公共スペースを有しており、乗船されるお客様に、ゆったりとした船旅を楽しんで頂けると共に、新門司港フェリーターミナルと大阪南港フェリーターミナルを徒歩でご利用頂くお客様には、安全かつバリアフリーな環境で乗下船頂けます。

大阪南港～北九州・新門司港間に就航する『CITY LINE 名門大洋フェリー』の次世代フェリーにどうぞご期待下さい。

1. 新造船の概要

- (1) 2002年就航「フェリーきょうとⅡ」・「フェリーふくおかⅡ」の代替船
- (2) 全長・全幅 195m・27.8m (被代替船：167m・25.6m)
- (3) 総トン数 約15,400トン (被代替船：9,770トン)
- (4) 車輛積載台数 トラック（12m換算）約162台 (被代替船：108台)
乗用車 約140台 (被代替船：145台)
- (5) 旅客定員 715名 (被代替船：692名)
- (6) 就航時期 1番船 2021年12月
 2番船 2022年 3月
- (7) 特徴 ① 省エネルギー
 ・ハイブリッド型アジマス推進加勢方式、空気潤滑システム等の採用
 で省エネを実現
- ② 環境負荷低減
 ・ハイブリッド型スクラバーの採用で排ガス中のSO_xを低減
- ③ 貨物ユーザーに向けたサービス強化
 ・効率的荷役：二層同時荷役方式の採用で荷役時間を短縮
 ・ドライバーズルームの増室
- ④ 乗船客に向けたサービス強化
 ・乗船客の利便性向上のため、旅客甲板に乗用車用積載スペースを確保
 ・ゆったりとした公共施設の確保（展望浴室、シャワー室）
 ・個人客のニーズに合わせシングルルームとツインルームを増設し、
 トイレ・シャワー付きツインルームを新設
 ・電気自動車用充電器の設置
 ・ファミリー客のための授乳室、キッズルームの設置
 ・女性客のためのパウダールームの設置
 ・従来から好評の開放感のある展望レストラン、展望ラウンジの設置
- ⑤ 内装デザインコンセプト
 ・歴史的建築物の凛とした佇まいや四季折々の風情が息づく京都の街並
 みをモチーフとした『古都のたたずまい』と、近代的なウォーターフ
 ロント開発が進む博多湾の臨海エリアと、海の中道や能古島の自然が
 共存する福岡の活力をモチーフとした『ベイサイドシティのきらめき』
 を基本コンセプトとして、次世代の“CITY LINE”に相応しいデザイ
 ンを追求
- (8) 造船所 三菱造船株式会社（下関）
- (9) 添付資料 新造船イメージ図（カラー外観図）

2. 港施設の建設

大阪南港での新造船の効率化荷役のため、上部貨物積載甲板への可動橋を新たに設置します。